

愛知淑徳大学

平成27年度 入試結果

平成27年度入試
1万7149人志願！
過去最多を記録

新課程を迎えた初めての入試。本学の
総志願者数は1万7149人となり、昨
年の1万4416人を大幅に上回る結
果となりました。

本年度の各入試の動向としては、実施
内容を大きく変更した公募制推薦入試
や試験日を変更した一般入試C方式に
おいて、志願者が大幅に増加しました
(公募制推薦入試：昨年比182.2%、
一般入試C方式：昨年比147.8%)。
そして、それ以外の入試方式において
も、ほとんどの入試方式で志願者数の増
加が見られました(AO入試Ⅰ：昨年比
116.7%、AO入試Ⅱ：昨年比11
0.5%、一般入試A方式：昨年比10
3.8%、B方式：昨年比125.6%、セ
ンタープラス方式：昨年比117.2%、
センター利用入試Ⅰ期(3教科型)：昨年
比95.9%、センター利用入試Ⅰ期(4
教科型)：昨年比99.0%、センター利

一般入試センタープラス方式

(本学独自試験1教科+大学入試センター試験2教科入試)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	8	217	67	3.2
	英文学科	8	223	108	2.1
	教育学科	8	392	108	3.6
人間情報学部	人間情報学科	16	290	181	1.6
心理学部	心理学科	15	350	148	2.4
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	24	530	240	2.2
健康医療科学部	医療貢献学科	2	95	25	3.8
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	61	17	3.6
	スポーツ・健康医科学科	8	285	88	3.2
福祉貢献学部	福祉貢献学科	4	126	28	4.5
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	3	187	27	6.9
交流文化学部	交流文化学科	28	540	336	1.6
ビジネス学部	ビジネス学科	18	429	199	2.2

一般入試A方式〔3教科入試〕

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	32	269	265	116	2.3
	英文学科	32	224	223	95	2.3
	教育学科	32	471	465	147	3.2
人間情報学部	人間情報学科	50	296	296	161	1.8
心理学部	心理学科	48	419	415	181	2.3
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	75	470	465	215	2.2
健康医療科学部	医療貢献学科	11	115	112	29	3.9
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	10	61	60	26	2.3
	スポーツ・健康医科学科	30	264	262	90	2.9
福祉貢献学部	福祉貢献学科	16	147	147	41	3.6
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	14	247	246	45	5.5
交流文化学部	交流文化学科	85	615	607	340	1.8
ビジネス学部	ビジネス学科	56	464	458	199	2.3

一般入試C方式〔1教科入試〕

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	4	68	66	14	4.7
	英文学科	4	76	73	24	3.0
	教育学科	4	132	127	8	15.9
人間情報学部	人間情報学科	9	314	301	48	6.3
心理学部	心理学科	8	225	222	36	6.2
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	14	209	205	26	7.9
健康医療科学部	医療貢献学科	2	50	49	4	12.3
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	2	36	36	13	2.8
	スポーツ・健康医科学科	5	171	167	14	11.9
福祉貢献学部	福祉貢献学科	3	98	96	7	13.7
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	2	49	48	12	4.0
交流文化学部	交流文化学科	15	225	223	57	3.9
ビジネス学部	ビジネス学科	10	330	319	52	6.1

一般入試B方式〔2教科入試〕

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	15	136	134	42	3.2
	英文学科	15	155	150	63	2.4
	教育学科	15	255	253	68	3.7
人間情報学部	人間情報学科	20	159	158	76	2.1
心理学部	心理学科	20	192	191	64	3.0
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	30	313	309	102	3.0
健康医療科学部	医療貢献学科	4	73	73	20	3.7
	言語聴覚学専攻 視覚科学専攻	4	50	50	17	2.9
	スポーツ・健康医科学科	14	249	247	53	4.7
福祉貢献学部	福祉貢献学科	7	73	73	16	4.6
	社会福祉専攻 子ども福祉専攻	5	124	122	19	6.4
交流文化学部	交流文化学科	36	272	269	112	2.4
ビジネス学部	ビジネス学科	23	225	223	78	2.9

※倍率 = 受験者数 / 合格者数

※一般入試センタープラス方式、センター利用入試、

AO入試Ⅰは、志願者数=受験者数





用入試Ⅱ期(2教科型)・・・昨年比86.0%。

また、インターネット出願については、他大学に先駆け2007年度より一般入試とセンター利用入試で導入してきましたが、本年度の利用者数の割合は全出願者のほぼ9割まで増加しました。昨年の利用者数を超える数値を記録し、インターネット出願がさらに定着してきている様子が窺えました。

18歳人口の減少や高大接続改革、グローバル化など、多くの課題を抱え、急速な変化を迫られている現在の大学を巡る状況において、本学への志願者数の増加は大変ありがたいことと感謝の限りです。本年度の入試結果を本学への期待が高まっていることと受け止め、来年度入試も全学をあげて努力してまいりますので、一層のご協力とご支援をお願いいたします。

公募制推薦入試(基礎学力重視型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	12	146	146	14	10.4
	英文学科	12	119	117	19	6.2
	教育学科	12	158	158	22	7.2
人間情報学部	人間情報学科	34	136	135	113	1.2
心理学部	心理学科	27	179	179	77	2.3
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	45	213	207	186	1.1
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	5	43	43	7	6.1
	視覚科学専攻	7	42	41	17	2.4
	スポーツ・健康医科学科	20	169	169	23	7.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	14	109	109	23	4.7
	子ども福祉専攻	8	145	138	8	17.3
交流文化学部	交流文化学科	50	316	314	160	2.0
ビジネス学部	ビジネス学科	34	262	260	83	3.1

センター利用入試I期(3教科型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	5	88	41	2.1
	英文学科	5	83	49	1.7
	教育学科	5	113	48	2.4
人間情報学部	人間情報学科	10	107	67	1.6
心理学部	心理学科	8	119	47	2.5
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	15	153	74	2.1
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	2	21	8	2.6
	視覚科学専攻	2	12	7	1.7
	スポーツ・健康医科学科	4	78	40	2.0
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	3	42	20	2.1
	子ども福祉専攻	3	56	15	3.7
交流文化学部	交流文化学科	17	180	133	1.4
ビジネス学部	ビジネス学科	12	105	58	1.8

AO入試I

学部	学科(専攻)	定員	志願者	第1次選考 合格者	第2次選考 受験者	第2次選考 合格者	倍率
文学部	国文学科	若干名	2	1	1	1	2.0
	英文学科	若干名	1	1	1	1	1.0
	教育学科	若干名	5	3	3	2	2.5
人間情報学部	人間情報学科	若干名	5	4	4	4	1.3
心理学部	心理学科	若干名	4	3	2	2	2.0
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	若干名	11	10	9	9	1.2
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	若干名	2	2	2	2	1.0
	視覚科学専攻	若干名	1	1	1	1	1.0
	スポーツ・健康医科学科	若干名	14	10	10	3	4.7
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	若干名	2	2	1	1	2.0
	子ども福祉専攻	若干名	5	4	4	2	2.5
交流文化学部	交流文化学科	若干名	12	10	8	8	1.5
ビジネス学部	ビジネス学科	若干名	13	11	8	8	1.6

センター利用入試I期(4教科型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	4	35	20	1.8
	英文学科	4	38	25	1.5
	教育学科	4	67	29	2.3
人間情報学部	人間情報学科	7	31	21	1.5
心理学部	心理学科	6	60	28	2.1
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	10	39	24	1.6
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	2	15	8	1.9
	視覚科学専攻	2	4	2	2.0
	スポーツ・健康医科学科	4	28	12	2.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	2	19	11	1.7
	子ども福祉専攻	2	39	10	3.9
交流文化学部	交流文化学科	10	80	67	1.2
ビジネス学部	ビジネス学科	9	36	24	1.5

AO入試Ⅱ

学部	学科(専攻)	定員	志願者	受験者	合格者	倍率
文学部	国文学科	8	23	23	12	1.9
	英文学科	8	18	18	11	1.6
	教育学科	8	23	23	11	2.1
人間情報学部	人間情報学科	28	41	41	32	1.3
心理学部	心理学科	24	39	39	29	1.3
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	40	66	66	42	1.6
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	8	20	20	8	2.5
	視覚科学専攻	7	15	15	9	1.7
	スポーツ・健康医科学科	14	52	52	16	3.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	12	19	19	13	1.5
	子ども福祉専攻	6	29	29	5	5.8
交流文化学部	交流文化学科	48	70	69	53	1.3
ビジネス学部	ビジネス学科	32	60	60	42	1.4

※AO入試I・IIの募集人員(定員)は合算です。

センター利用入試Ⅱ期(2教科型)

学部	学科(専攻)	定員	志願者	合格者	倍率
文学部	国文学科	2	23	4	5.8
	英文学科	2	10	4	2.5
	教育学科	2	21	2	10.5
人間情報学部	人間情報学科	6	37	13	2.8
心理学部	心理学科	6	19	6	3.2
メディアプロデュース学部	メディアプロデュース学科	8	31	13	2.4
健康医療科学部	医療貢献学科 言語聴覚学専攻	2	5	2	2.5
	視覚科学専攻	2	8	6	1.3
	スポーツ・健康医科学科	3	19	3	6.3
福祉貢献学部	福祉貢献学科 社会福祉専攻	2	34	2	17.0
	子ども福祉専攻	2	13	2	6.5
交流文化学部	交流文化学科	8	30	12	2.5
ビジネス学部	ビジネス学科	7	57	15	3.8



愛知淑徳中学校 平成27年度 入試結果

志願者数は1002人、実質競争倍率は1.8倍
中高一貫校へのさらに高まる期待と関心

入試科目と試験時間・配点

科 目	試験時間	配 点
国 語	50分	100点
算 数	50分	100点
社 会	あわせて60分	50点
理 科		50点

受験者の平均点、最高点・最低点

科 目	全受験者	最高点	最低点
国 語	65.8(62.4)	98	18
算 数	54.6(53.4)	98	0
社 会	33.4(33.4)	48	8
理 科	29.2(24.7)	45	8
計	183.0(173.9)	267	39

※()内は前年度

合格者の平均点、最高点・最低点

科 目	合格者全体	最高点	最低点
国 語	72.3	98	44
算 数	66.0	98	36
社 会	37.1	48	19
理 科	32.8	45	14
計	208.2	267	181

公立高校の授業料無償化もすっかり定着してきましたが、15歳という多感な時期での高校受験の存在はやはり大きく重いものがあります。また、特定の公立高校の競争率は依然として高く、中学・高校時代に豊かで充実した時間を過ごしたいと考えれば、受験生にも父母にも中高一貫制度が魅力的であることには変わりありません。また、高校受験によって分断されないカリキュラムの合理性は、今後予想される大学受験制度改革を考えればますます重要になってきていると言えます。

本校では、国数社理の4教科受験、定員は280人という体制も定着し、2月の最初の日曜である2月1日に入学

試験を実施しました。他校については、南山中(女子部)が本校の前日の1月31日、金城学院中と愛知中が1月24日、聖霊中が1月25日、椋山女学園中は本校と同じ1日、滝中は2月8日と、昨年度に準じた日程で実施されました。

今年度入試の本校への志願者は1002人、受験者は943人でした。当日の欠席は昨年度よりも減少し、志願者数、受験者数とも昨年度を上回りました。合格者は531人となり、実質競争倍率は1.8倍でした。特に国語と社会では受験者平均で6割以上の得点率となり、合格最低点は181点(得点率60.3%)と昨年度を上回り、実力伯仲の入試となりました。その後繰上げ

合格者を19人出し、最終的な入学者は286人となりました。

高校入試のない完全中高一貫カリキュラムも定着し、第1期生は本年度で大学4年生となります。高校2年から文型・理型に分かれるカリキュラムは、昨年度からα(基礎)クラス、β(応用)クラス制を取り入れて内容も整え、生徒たちは充実した学校生活を謳歌しながらも、それぞれの進路に向かって中身の濃い時間を過ごしています。本校の中高一貫教育が一人でも多くの受験生や保護者の理解を得て、来年度はさらに多くの受験生が本校を志望してくれることを期待しています。